VOl.83
平成27年新年号

季刊

ほのぼの倶楽部

園庭浅春

編集・発行
社会福祉法人多摩済生医療団
多摩済生園・多摩済生ケアセンター
施設長　中村 与人
小平市美園町３－12－1
電話：042-343-2291

年頭にあたり－今こそ、社会福祉法人の基本理念に立ち返る時－　施設長　中村与人
去年今年貫く棒の如きもの－年末年始報告
ことしもよろしくお願いします－職員メッセージ
地域包括支援センターだより

年頭にあたり―今こそ、社会福祉法人の基本理念に立ち返る時―

施設長　中村　与人

平成二十七年度介護報酬２・２７％ダウン

平成二十七年度の介護報酬の大枠が決定しました。新聞、テレビのトップニュースで報じられたのは、これからの日本の社会保障のあり方を方向付ける最重要事項の一として捉えられたからなのでしょう。特に今回の改正では、アベノミクス～景気回復～財政再建vs・消費税アップ見送り～社会保障費の抑制等々との絡みの中で、いつも以上に決定までには、言葉に語弊があるかもしれませんが、大きな盛り上がりをみせることとなりました。

各報道機関による「社会福祉法人は儲け過ぎ」報道に始まり、課税問題、地域貢献事業義務化問題・・・世論と財政事情のせめぎあいの中でマイナス２．２７％がはじき出されることとなりました。

社会福祉法人バッシングの起こる背景
～国民の望むことは？

まずは「社会福祉法人は儲け過ぎ！特養の内部留保金額は全国平均３億円！、収支差率も一般企業を上回っている！」等々の報道について、社会福祉法人関係者は、当初静観しておりましたが、問題が大きくなるにつれて、反論を始めました。会計専門家からも、「一般企業とは会計基準がそもそも違う。一般企業と同じ基準で比べてみれば、社会福祉法人の収支差率が高いとはいえない！」、「お国の示した数字がまずは間違っている！多くの社会福祉法人の経営はギリギリ！」「内部留保についても一般企業とは法人の成り立ちが違い、内部留保金が残るシステムになっている。３億円といっても現預金は９千万円程で通常の運転資金の範囲内！」等々意見が述べられました。

これらのネガティブキャンペインを展開した報道機関に対して、私も一言だけ申し上げたいことがあります。テレビ・新聞報道ではよく有りがちですが、主義主張に一貫性が無い！と改めて思います。あれだけ社会福祉法人批判の特集を組み、社会福祉法人バッシングの世論をかきたて、「介護報酬削減賛成！」とも言わんばかりの論調を繰り返しておきながら、いったん介護報酬ダウンが決まると≪経営打撃、サービス低下・人材不足懸念≫等の記事を平気で掲載できる・・・。いったいどちらの側に立った意見なのでしょうか？新聞社の方からすれば「どちらも事実。事実を伝えたのみ。」と返ってきそうですが、何か腑に落ちないのは私だけでしょうか？

それからもう一言。事実を伝える報道機関であるのなら、言葉の意味・定義もしっかり伝えて頂きたいと思います。上記の「内部留保金」という言葉は、一般の方には正確な定義がはっきりしない専門用語です。上記の繰り返しになりますが、多くの国民に誤解を与えている「内部留保３億円」とは、実資金ではなく、現預金としては「９千万円程」で、３か月分の運転資金として常識的な金額なのです。

ただ、これら会計制度の違いや、特養経営の厳しい実態等々を財務省は知らないはずはありません。お得意の数字のマジックで、社会保障費抑制の為、介護報酬削減の理由付けに使われているのです。確かにお国の立場にたって考えてみれば、お国そのものが沈んでしまったら、本も子もない。介護報酬削減も国民のためだ！とおっしゃるでしょう。介護報酬を１％カットすれば、１千億円の保険料が浮く。国民の払う保険料や自己負担金が軽減される、とも言われています。がしかし、あと１００万人は必要といわれている介護職員。万年人手不足のことは周知の通り。やはり介護事業所の経営が今以上に苦しくなれば、介護崩壊に陥ってしまう、と言われていることも事実なのです。

そう考えた時、大切なことは『国民はどのような方向性を望むのか』ということなのだと思います。第一面で社会福祉法人批判を特集していた新聞社は、これらの記事に関しての読者の受け(リアクション)は、大変良かった、と言っていたそうです。社会福祉法人批判の特集がトップで組まれ連載されていく背景には、実は、国民の社会福祉法人に対する批判や不信感が心の奥底にあるのかもしれません。

我々社会福祉法人が反省すべきことは無いのか?と、これを機に考えていくことも必要なのです。

我々社会福祉法人が成すべきこと

「社会福祉法人にも課税すべき」「非課税ならそれなりの地域貢献事業を義務化する」等々の問題と論調は今なお続いています。早急な取り組み課題として

◇財務諸表の公表

◇役員報酬規程の明文化と公開

◇全法人への評議員会の設置義務

◇会計監査人制度の導入

・・・等々があげられています。いわゆる社会福祉法人の『透明化』が今、求められているのです。

そもそも、社会福祉法人問題が、なぜこのように大きな騒ぎとなってしまったのでしょうか。それは、やはり残念ながら一部の社会福祉法人には、私腹を肥やす法人が存在し、それがひとつの要因となり、「社会福祉法人はいったい何をしているのか!?」との批判を社会・地域住民から受けているからなのだと考えます。新聞報道で伝えられたような、土地活用や資産運用のために始めた法人、役員報酬のみが高すぎる法人、親族、姻族で主だった役職を固めている法人・・・このような一部法人への厳しい批判が背景にあることから決して目をそらしてはいけないのです。

我々社会福祉法人が、今成すべきことはまず、自己検証と不断の自己改革なのだと思います。良識ある社会福祉法人であるならば、自らに厳しく、社会から求められている課題に対して真摯に向き合い、具体的な行動で示していくことしかありません。そして悪しき法人が今後設立できないように、現存する好ましくない法人は改善されるように、社会福祉法人制度の改正に協力していくことも必要なのだと思います。

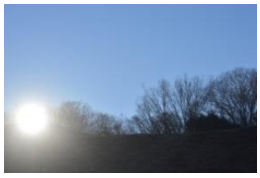
「課税されるから地域貢献事業をやろう」ではなく、社会福祉法人の基本理念に立ち返り、『何か困っている方に対して自らのできることを実行しよう!』と考えなければならないと、改めて強く思う次第です。

社会福祉法の基本理念に「社会福祉法人は、・・・地域住民等の理解と協力を得るよう努めなければならない。」とあります。何よりも第一に、地域(施設を含めた)ニーズと向き合い、それに応えていくこと!これに尽きるのです!!

それから最後にもう一言・・・。「地域貢献事業を行うべし!」等と言われ始めると、我々福祉業界の悪いクセで「福祉」と「経営」とを対極に捉え、福祉業を一生懸命やっていると、経営が悪くなって当たり前・・という言訳がまかり通ってしまいがちです。私から言わせてもらえば、このような考えも、一般社会から批判されている一因であると考えます。我々の仕事は、究極のサービス業なのです!「福祉サービス」と「経営」は対極にあるものではなく、サービスの質が高くなれば当然「経営」も良くなって行くのです。

利用者のサービスの質を更に上げていくこと、そしてこれを実現させる基礎となる職員の処遇改善を図ることが、施設・事業の経営を託されている施設長の最大の責務です。

これからも、「困った時はタマサイに!」と皆様から言ってもらえるような「明るく元気な」施設を目指していきますので、どうぞよろしくお願い致します。



武蔵野黎明

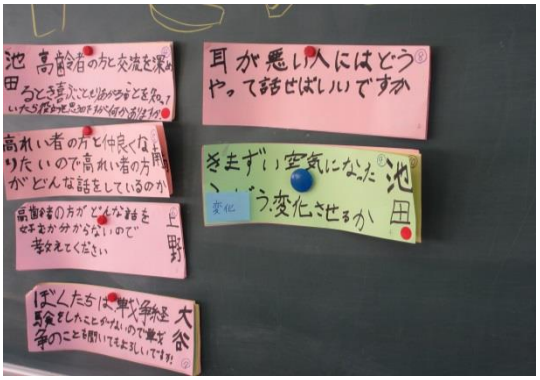
去年今年貫く棒の如きもの

こぞことし

高浜　虚子

▲12 月 21 日～クリスマス会　▼12 月 19 日ふれあい交流会

▲12 月 29 日雨天決行餅つき



▲11 月 27 日小平市立第七小学校交流授業「高齢者の気持ちを受け止め、関わりを深めよう」

▼1 月 2～4 日　初詣

■元旦初舞台・初競演

■あけまして
おめでとうございます

■11 月 20 日法人創立 78 周年記念式典

▲11 月 12 日　社会福祉協議会北北ブロック介護職員研修会、12 月 10 日
都立心身障害者口腔保健センター出張講義　於当園4階集会室

■■12月19日
第63回東京都社会福祉大会にて
大会会長表彰を受けました。

中村　与人（施設長）
小峰　峰子（事務職員）
小柳　秀子（ケアセンター介護支援専門員）

■■11月20日
法人創立78周年記念式典にて
理事長より永年勤続表彰を受けました。

■勤続20年
長谷川　健明（園・介護福祉士）

■勤続15年
伊藤　寿江（園・介護福祉士）
関田　弘美（訪問介護・管理者）
中島　直美（園・主任生活相談員）

■勤続5年
角田　京子（園・管理栄養士）
野本　さつき（デイ・介護福祉士）
松田　みどり（園・介護福祉士）
鎌野　ひろ子（デイ・介護福祉士）
高橋　明美（訪問介護・サービス提供責任者）
池　幸枝（園・介護福祉士）
角田　勇哉（園・介護職員）
菊地　あかり（デイ・介護福祉士）
中村　志保（居宅・介護支援専門員）
丸山　真司（デイ・介護福祉士）
塩浦　京子（訪問介護・サービス提供責任者）
田村　祥子（園・介護福祉士）
神谷　一美（居宅・介護支援専門員）

多摩済生園指導課長
居宅介護支援事業所管理者
松田　幸三

多摩済生園と多摩済生ケアセンターの運営統合後、１０年が経過しました。いま、地域包括ケアシステム構築と声高に言われている折、施設サービス部門と在宅サービス部門は、今までよりも強く連携する必要があります。昨年１１月から施設サービス部門の職員が在宅サービス部門の新規事業である「たまさいケア２４」の夜間オペレーターを担うこととなりました。その結果、両部門の一体化がより一層図られることとなりました。これを更に推し進め、新たな形を創り出すことが、地域包括ケアシステムの構築に寄与して行くことに繋がると考えます。ことしも職員一同、微力を尽くして頑張りたいと思います。

看護課長
松尾　よし子

明けましておめでとうございます。

この冬は、雪のたよりも早く、インフルエンザもいつもより急に猛威を振るい始めました。そしてまだまだ警戒を緩めてはなりませんが、幸い、多摩済生園では昨年と同様、ご利用者の罹患ゼロで新年を迎えることができました。

春夏秋冬、ご利用者がより平穏に過ごしていただけるよう、スタッフ一同まずは自らの健康管理をしっかりおこない、最善最良の看護サービスの提供のため頑張って参ります。ことしもどうかよろしくお願いいたします。

羊・翔・善・義・美…ことしもよろしくお願いします

主任生活相談員
中島　直美

自分自身にも「ことしもよろしくね。」と声をかけながら新しい一年をスタートしました。ご利用者のお元気な姿、笑顔、たくさんのお話しを拝見、拝聴し、私もますます磨きをかけて、身も心も骨太となって、たくましく仕事をさせていただきたいと思います。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

給食課主任
金子　大介

今年も、これからも「愚公移山」の精神で、ご利用者の栄養、食事面を給食課一同一丸となってサポートさせていただきますので、どうぞよろしくお願い致します。

デイサービス（通所介護）
管理者(主任生活相談員)
関口　一夫

介護保険制度の一部見直しと介護報酬のマイナス改定がほぼ決まったと報道され、通所介護施設にとっては厳しい年になりそうですが、「老舗」としての経験とノウハウを生かし、地域の皆様に安心して在宅での暮らしを続けて行けるよう且つ又そのことにより地域包括支援システムの進展に寄与して行けるよう頑張ります。

訪問看護ステーション
管理者（主任訪問看護師）
平部　篤子

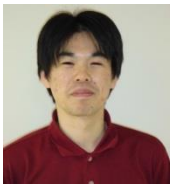
昨年１１月に発足したたまさいケア２４の連携先訪問看護事業所としての役割も担うこととなり、年初早々本腰を入れて活動を開始したところです。看護と介護のより密接な連携、協働による２４時間在宅ケアを推し進めるためにも自らのスキルアップを図り、フットワークを発揮し、地域の皆様の負託と期待に応えて参りたいと思います。

訪問介護／定期巡回・随時対応型訪問介護看護たまさいケア２４管理者
関田　弘美

我が家の庭の梅の木に小さな蕾を見つけました。春が少しずつ近づいて来ています。昨年１１月、法人及び小平市の全面的なバックアップを得てたまさいケア２４のスタートを切ることができました。ご利用者の在宅での生活をよりきめ細かく、より継続的に支援して行くため、サービスの向上に一層努めて参りますので、どうか宜しくお願い致します。

地域包括支援センター
管理者（主任社会福祉士）
伊　藤　高　行

未年生まれの人は１００７万人、総人口に占める割合は７・９％。一方、先日発表された１０年後の予測では、６５歳以上人口の５人に１人が認知症になるとのこと。認知症になっても安心して暮らせる町作り、地域のネットワーク作りを目指して行くこと。これが、地域包括支援センターの最大の願いと努めです。



フロアーリーダー
田　近　　和　弘

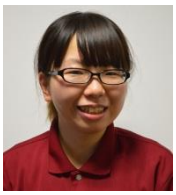
昨年は大きな出来事が3つありました。一つ目は1月に結婚したこと。二つ目は4月にリーダーに就いたこと。三つ目は8月に第1子が誕生したことです。全てがわからないことだらけで無我夢中の1年でした。この経験を糧として、新しい1年を一生懸命全力でチャレンジして行きたいと思います。

フロアーリーダー
井　村　　謙　吾

あけまして、おめでとうございます。ご利用者と楽しく過ごしていると月日が経つのも早く感じられます。私も入職してからもう16年目を迎えることになります。介護のプロとして、2階スタッフ全員でスクラムを組んで、丁寧なケアサービスの提供に励みますので、よろしくお願いします。

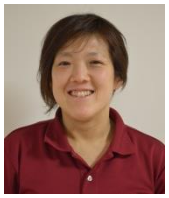
フロアーサブリーダー
後　藤　　敦　子

私は多摩済生園での勤務経験は長くはないのですが、ちょっぴり年を多く重ねているので、利用者様と話をしていると、「ほう、そうでしたね。ありましたね、あの頃は。」と頷き合いながら楽しく仕事をさせていただいています。今年も皆様に寄り添い、穏やかな生活を送っていただけるよう、あっちこっちで沢山おしゃべりを交わしていけたらと願っています。



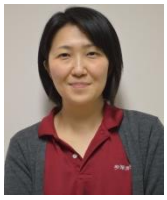
ユニットリーダー
川　﨑　　悠　子

ユニットリーダーとなり早1年が過ぎました。今年は昨年同様、「笑顔で元気に」をモットーに毎日を過ごしたいです。また利用者の方々に満足していただけるケアの提供と、お一人一人のニーズに合った接遇を考え、明るく、心の安らぎを感じていただけるようにしたいです。どうぞよろしくお願いいたします。



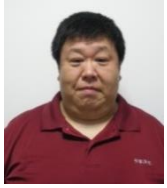
ユニットリーダー
村　山　　裕　理

ユニットに配属され1年が経ちます。利用者お一人一人と接する時間が日々勉強です。今年は、このような貴重な経験をさせていただいていることに「有難う」の気持ちを多く伝えて行きます。一つでも多くの笑顔が増えるようフロアースタッフ全員と手を携え頑張ります。



ユニットリーダー
岡　田　　美　鈴

明けましておめでとうございます。年初早々ユニットリーダー研修に行かせていただくことになり、あらためてケアの在り方、生活の質の向上について考える毎日です。学んだことを現場で着実に生かして行けるよう、ご利用者様の笑顔があふれる施設をスタッフと一緒に作って行きたいと思います。



ユニットリーダー
宮　下　　智　之

明けましておめでとうございます。昨年中は、ご利用者の方々やご家族様より温かいご支援やご理解を賜りありがとうございました。今年も、「安全・安心・信頼」をキイワードに職員一同一丸となって努力して行きたいと思います。

指導課副主任
田　中　　伸　一

今年は昭和から数えて９０年、終戦から７０年、今日の日本を営々と築いて来てくださった方々に感謝の思いを新たにし、ご利用者、地域の方々に少しでも貢献できればと思います。また、新年度から介護保険制度が大きく変わります。地域包括ケアシステムの構築が強く求められており、施設と市民との一層の「つながり」が求められています。その職責が果たせるよう尽力して参ります。

たまさい便り

27.1月号

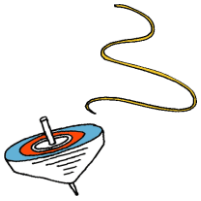
新年　あけましておめでとうございます！

今年もよろしくお願いします！

2015年はこんな一年になりそうです…

新聞やテレビのニュースでも話題になっていますが、
働き手が足りず、閉店や縮小を余儀なくされる飲食店等が増えています。
介護現場も同じように、深刻な介護職員不足が課題となっています。

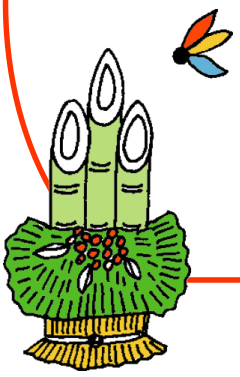
もちろん進む高齢化…そんな中、4月には介護保険法の一部改定が行われます。介護施設に支払われる介護報酬は減る方向、要支援認定者が各自治体の総合事業へ転換…と、慌ただしい一年になりそうです。



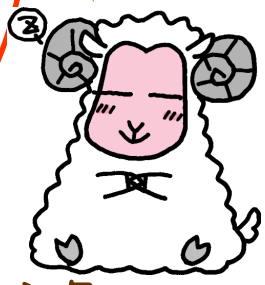
そんな中、住み慣れた地域で暮らし続けるために、
・住民同士の見守り活動
・要介護状態にならないための介護予防
が大きなキーワードになってきます。

言葉は硬いイメージになっていますが、ようするにご近所付き合いをして、お互いにあいさつしましょう、三度の食事をきちんととり、閉じこもらない生活を心がけましょうということです。なんだかできそうな気がしませんか？

景気も上向きになるのではないかと言われているので、
私たちも前向きに、いま自分ができることをがんばりたい一年にしたいですね！！



ちなみに先日 NHK で話題になった、
『若返りの薬』ができるとかできないとか…
年をとる度に若返ってしまおうなんて、
人間の考えることはすごいんだメェ～～～



高齢者・介護相談窓口　地域包括支援センター　多摩済生ケアセンター

美園町　TEL　349―2123　　喜平橋出張所　TEL　359－2831